釣れ釣れなるままに

１９８５年思い出の釣行記

二つ岩トンネル裏

鹿島釣狂

☆釣 行 日	昭和６０年５月２６日、２７日
☆入釣場所	小平町富岡、留萌港、浜益港、二つ岩トンネル裏出岬
☆潮	満潮　１７：００
	干潮　０２：２０
☆エ　サ	エラコ　サンマ
☆釣　果	川ガレイ　２２㎝～２６㎝　２
	砂ガレイ　１５㎝～１８㎝　３
	アカハラ　２７㎝～３２㎝　６
	ギスカジカ　６

１５：３０～２０：００　富岡海岸

川ガレイ　２２㎝～２６㎝　２
砂ガレイ　１５㎝～１８㎝　３
アカハラ　２７㎝～３２㎝　６

２１：００～１：００　留萌港

富岡に向かう途中で留萌港に立ち寄ったときはニシン釣りをしており、多い人でも１０匹程度であった。夜９時に訪れた時には、人、人、人で埋め尽くされていた。発電機の音がけたたましく鳴っており、煌々とライトを照らし、自動竿しゃくり機で狙っている。しかし、誰一人釣れていなかった。

諦めて浜益に向かう。途中、雄冬海岸の出岬やテトラポットの上にかなりの人が入っているのが見えた。

４：００～６：００　浜益港

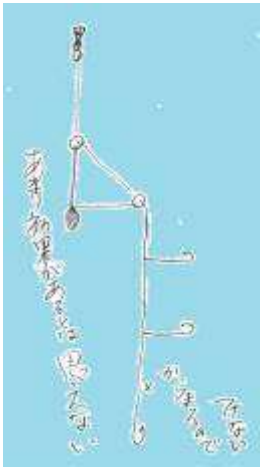
ギスカジカ　６

防波堤先端部で川ガレイの大物（３０㎝級）を何枚も上げている人がいた。テトラポットの上で釣りをしていた砂川の人がテトラポットの隙間に落ちて救急車で運ばれたという。私はテトラの上には上がらないが、気をつけよう。

６：３０～８：００　二つ岩トンネル裏

「北海道のつり」で紹介されていたところに釣り人がいたので向かってみる。先に入っていた二人組は３５㎝ぐらいのアブラコを１匹釣っていた。私も竿を出してみるが一度もアタリが無かった。

二つ岩の入り江で釣りをしていた人はカジカ３０㎝強１、ガヤ２



☆釣 行 日	昭和６０年６月９日～１０日		
☆入釣場所	二つ岩トンネル裏出岬		
☆潮	干潮	０３：２５	８㎝
	満潮	１１：００	２４㎝
☆釣　　果	ガヤ	１８㎝～２７㎝	２３
	アブラコ	２９㎝	１

ガヤを持ち帰る

１８：００　入釣

１９：００頃、１２時方向の竿にアタリがあり上げるとガヤがサンマに食いついていた。その後、ポツラポツラとガヤが釣れる。

２２：００頃　３０㎝ほどのアブラコが釣れた。丁度、竿のところにいるとアタリがあり、小さいが初めて三段引きを味わった。ククン、ククン、グーンとアワセもばっちり決まる。根掛かりが心配なので一気に抜き上げる。岩場での初めてのアブラコであり、大変嬉しい。

その後、のべ竿を出してウキにも仕掛にもギョギョライトを付けてみる。投げている三本の竿にはアタリが止まり、のべ竿にばかり来る。ウキは少し大きめだがアタリはギョギ

ョライトの光がキラキラと沈んでいくのでよく分かる。心配はない。上バリにイカゴロを付けると効果抜群のような気がした。食いの渋ったときに、ガヤの腑を取って撒き餌にしてみた。効果のほどはよく分からない。上げ三分に下げ三分というが２４：００頃と４：００頃がよかったようだ。それ以降はパタリとアタリが途絶えてしまった。

子どもたちのために（自分のためかも）ガヤをフラシに入れて生かしておき、帰りに幌漁港でクーラーに海水を入れ、ポリタンクにも海水をつめて持ち帰った。帰る途中、眠くなったので仮眠をとる。帰るまでに時間をロスしてしまったためか、３匹のガヤだけが生き残っていた。それを水槽に入れて飼うことになった。エサを食べてくれなかったが１週間ぐらいも生き続けていた。その水槽には海の微生物（プランクトン）が沢山発生していた。

☆釣 行 日	昭和６０年６月２３日、２４日
☆入釣場所	二つ岩トンネル裏出岬　浜益港
☆潮	満潮　　１７：１０
	干潮　　０２：０２
☆天　　気	南西の風後西の風、波穏やか
☆釣　　果	ガヤ　　１６㎝～２６㎝　４０
	ギスカジカ　　２

ガヤはやっぱりここです

１６：００頃、二つ岩トンネル入口手前にある湾洞に入ろうと思って磯を見つめていたが、後から二人連れが来て入りたいというので、前回と同じ場所に入る。釣り場に着いてからエサ等を車に忘れていることに気づいた。釣り場に向かうときは、気持ちが急いているためこんな事をやらかしてしまうのだ。ついでに言うと家にイカゴロを忘れてきてしまっていた。あわてない、慌てない。

早速、投げ竿３本、磯竿１本を取り出して釣り始めるがさっぱりアタリがない。満潮時間帯の潮止まりなので駄目なのかもしれない。

２０：００頃よりポツポツと釣れてきた。そのうちに汗が出るほどの入れ食いとなった。ガヤ釣りはやめて、投げ竿でのソイと思うが、ついついウキを見てしまう。投げ竿のエサを付け替えていると、よいアタリが出る。慌てて大きく竿を煽るが、根に入られてしまったようだ。無理をせず魚が根からでるのを待つが、竿を大きく揺らすだけで出てこない。仕方なく仕掛を切ってしまった。またもや大きなアタリが出て大きく合わせて一気に引き寄せる。重い。おそらくソイだろう。しかし、やはり途中の根に潜られて前と同じ経過をたどってしまった。仕掛にギョギョライトを付けるのをやめてみたがさほど釣果は変わらないように思う。

ソイだけを狙って釣るというのは難しい。自分には向いていないのかもしれない。干潮時間帯になってもまだポツン、ポツンと釣れたのだが、夜が明けてしまうと望みが薄くな

るので浜益港に向かった。またまた子どもたちのためにガヤを生かして帰ろうと思って、５，６匹をフラシに入れて置いたのだが、そのフラシが流されてしまっていた。

カレイを釣りたいと浜益港に行く。いつもの防波堤の上にテトラポットが高く積まれて、釣り場が狭い。ほとんどアタリ無し。周りの釣り人も釣れていない。上がってくるのはギスカジカとヒトデくらいなものである。カレイを見たのは３枚。外海に竿を出してみるが同じ結果である。

この次はソイを狙って秋に、タンパッケ、ガマタトンネル方面に向かってみようと思う。ガヤ狙いはやめにして・・・。

☆釣 行 日　　昭和６０年１０月１２日、１３日
☆入釣場所　　二つ岩トンネル入口、トンネル裏
☆天　　気　　多少波あり　新月　雨
☆釣　　果　　クロゾイ　１９㎝～３０㎝　　４
　　アブラコ　１３㎝～２５㎝　　３
　　カジカ　　２０㎝　　１

我が友ソイよ

トンネル入口にある二つ岩に乗った。波が高くて後ろの方に下がって遠近投げ分ける。足場が悪くて取り込みづらい。根掛かりが激しい。エサはなくなる。アタリはなく、１度のアタリでカジカが釣れる。

２０：００頃、トンネル裏に入る。辺りは真っ暗で不気味な雰囲気である。耳の側でチュッ、チュッと音がする。前日に飲み過ぎて耳鳴りがするのか？虫の音かなにかの音なのか確かめたくて周りを見渡すがその主は見あたらない。おかしい。こんなに近くで音が聞こえてくるのに。

ソイだ。ソイが釣れた。狙ってソイを釣ることが出来れば一人前と言われる。ここに通った甲斐があったというものだ。２０㎝前後のものだが、ガヤではない。シマゾイか？マゾイか？クロゾイか？釣り上げたときには縞があったようだが・・・。

１：００頃３０㎝程のソイが釣れた。嬉しい。続けてと思うがままならない。イカゴロがよいようだ。ウキ釣りにもソイとアブラコが釣れる。どちらでもよいようだ。根掛かりしない分だけウキ釣りが楽なのかもしれない。棚を深くしたから釣れたのだろうか？根掛かりも多少した。

明るくなってからアブラコの小さいのが釣れた。チョコチョコとアタリがあったのはこの魚ではないだろうか。湾洞の奥で釣れた。

☆釣 行 日　　昭和６０年１０月２６日、２７日

☆入釣場所　　二つ岩トンネル裏　浜益港
☆潮　　干潮　２１：００
　　満潮　０３：００
　　干潮　０９：００
☆天　　気　　波高い　風強い　雨　雷
☆釣　　果　　川ガレイ　３３㎝　１
　　アブラコ　２０㎝　１

風には勝てません

１６：００～２０：００　二つ岩トンネル裏　○坊主

波が高くて釣りにならない。このぐらいの波でとは思うのだが、底荒れもひどくて魚がいないのではと思わされる。岩場だから何とかなると思うが、根掛かりを繰り返すばかりでどうにもならない。アタリも皆無だ。エサもそのままの形で戻ってくる。ウキ釣りも試してみるがウキがすぐに流されてしまう。潮の流れは下図の様になっている。面白いもので一定方向に流されるのではないことが分かった。

２１：００～０：００　浜益港

波がいよいよ高くなってきたので、帰りが心配になり浜益港へと向かった。先客が４人いたが防波堤先端に入ることが出来た。やはりここでも波が高くて仕掛が港の奥の方へと流される。大きなアタリが出た。重くてテトラにでも潜り込まれたら大変と強引にリールを巻くと道糸がプッツリと切れてしまった。何だったのだろう。またまた大きなアタリ。重い。先ほどよりも重く感じる。慎重に寄せて抜き上げると川ガレイが背中のすれに掛かっていた。
００：００～２：００、波風が強くなり一旦車に戻って一休みした。
２：００頃釣り場に戻ってみると竿が流される寸前になっていた。

隣の釣り人の三脚に荷物が引っかかってようやくの感じで災難を免れていた。その三脚の持ち主の竿も全部引き上げてあげるが、流されてしまうのではないかと心配になるほどだ。

再度、仮眠してから６：００ころに港の奥まったところで竿を出す。アタリはなく全く釣れる見込みがない。しかも、高い波に三脚がさらわれてしまった。イカゴロを３０本も持って行ったのに。がっくり、もう今年は釣りをやめにしよう。いや今度はチカ釣りでもしようか。

☆釣 行 日　　昭和６０年１１月２５日　４：００～８：００
☆入釣場所　　エリモ岬　第３下り口　窓岩
☆釣　　果　　アブラコ（ウサギアイナメ）　２８㎝～３０㎝　　３

憧れのエリモ

家族旅行で滝川の母を誘ってエリモ岬に行った。

朝３時に起きて準備を整え、宿から出て第３下り口に向かう。「北海道のつり（１９８５／７Ｐ６１）」で下調べをしていたので暗い中でも先へと進むことが出来た。途中、キツネの眼が光って気味が悪いが、それはそれで我慢して進んだ。下に降りると石原が開けていて歩きやすい。しかし、前方の離れ岩に渡るにはあまりにも暗すぎて危険だ。手前の崖縁を通り窓岩に向かった。思っていたよりは比較的楽に岩場先端に出ることが出来た。４：００、憧れのエリモでの第一投。エサはサンマとイカゴロである。

２時方向の竿先にアタリが出て、竿を煽ると根掛かりしてしまった。仕方なく道糸を切るつもりで竿をまっすぐにして引くと、ズルーと抜けてきた。いわゆるホンダワラにでも引っかかっていたのだろう。２８㎝程のアブラコである。思ったより元気がない。その後２匹上げるが、さすがのエリモである。

しかし、明るくなってからはアタリも遠のいた。１０時方向は根掛かりがひどい。アタリはあるものの魚を取り込むことが出来ない。約束の８：００に釣り場を後にする。エリモの８：３０はこの次の機会にとっておくことにしよう。自宅に戻ってから刺身にしてみると身の中に線虫が刺さり込んでいて、それが皿の上にモゾモゾと動き出して、気味が悪くて捨てることとなった。

後日談：この当時、そもそもエリモで釣りをするような道具立てではない。２５号竿に２５号鉛で釣りをしていたのだろう。

岩
エリモ
第3落口
駐車場